

# 鈴鹿の風 すずかのかぜ

VOL.  
35

独立行政法人国立病院機構鈴鹿病院広報誌

## 挨拶に代えて

院長 久留 聡

国立病院総合医学会にてベストポスター賞を受賞しました  
医学コラム「私たちの先にある感覚で日常を捉えている人々」

看護部だより

鈴鹿病院NEWS

名誉院長の部屋「カメちゃん」

地域医療連携室だより

昭和・平成スポーツオタクコラム—番外編6—





# 挨拶に代えて

独立行政法人国立病院機構鈴鹿病院 院長 **久留 聡**



昨年の医学界のトップニュースは、何と言っても本庶教授のノーベル医学生理学賞受賞でしょう。日本人の医学生理学賞は利根川先生、山中先生、大隅先生に次いで4人目です。癌に対する免疫メカニズムの解明がニボルマブ(オプジーボ®)の開発につながり、多くのがん患者さんを救うことになりました。日本人研究者の受賞は、同じ日本人として誇らしく大変勇気をもらえる出来事です。

一方、残念なことです。研究者の中には不心得者がいて大きな騒動になることもありました。山中教授がノーベル賞をもらった直後に、iPS細胞による心筋移植治療のことが話題になりました。このときは、すぐにガセネタであることが判り、単なるゴシップとして終息しました。さらに大きな話題

となったのは、まだ記憶に新しいSTAP細胞の事件です。iPS細胞よりも簡単に作成できて、癌化の危険性もない夢の幹細胞という触れ込みでした。これを開発したのは、うら若き女性研究者で、普段は白衣ではなく割烹着で実験をしているというエピソードが紹介され、次のノーベル賞間違いなし、リケジョの星と持ち上げられました。しかし、しばらくするとインターネットを中心に論文の画像に疑義が出されるようになりました。また他施設で実験してもなかなかうまく再現できませんでした。同じ分野の専門家から様々な疑問の声があがりましたが、当事者はそれにうまく答えることができませんでした。STAP細胞への疑惑が深まるなか、とうとう関係者が自殺するという最悪の事態が起きてしまいました。

結局Nature誌に掲載されていた論文は取り下げられることになりました。言うまでもなく研究者が一度は論文を載せたいと願う超一流誌ですが、そのNatureですら、まんまと騙されたということになります。本庶先生はNatureやScienceを疑うところから始めるとおっしゃっておられましたが、重い言葉です。この事件のお陰で、国際社会における日本研究者への信用は失墜し、国内では研究倫理面の規制が厳しくなりました。最初のインパクトが大きかった分、疑惑発覚後の影響は計り知れないものがありました。大隅先生や本庶先生のノーベル賞受賞が、失った信頼をとり戻すきっかけとなることを願うばかりです。日本のほとんどの研究者は日夜真摯に研究に取り組んでいるのですから。



# 第72回 国立病院総合医学会

The 72nd Annual Meeting of Japanese Society of National Medical Services

## 祝 国立病院総合医学会にてベストポスター賞を受賞しました

2018年11月9日(金)~10日(土) 神戸国際展示場・神戸国際会議場で開催された第72回 国立病院総合医学会にて、鈴鹿病院から伊藤 秀造さん(リハビリテーション科) 北村 沙耶さん(臨床検査科)の2名がベストポスター賞に選ばれました。受賞されたお二方からポスターの紹介とコメントをいただきましたのでご紹介します。

### リハビリテーション科 伊藤 秀造

今回「筋強直性ジストロフィー患者に対するHALを利用した歩行訓練の結果歩容が改善した症例」という表題で発表させて頂きました。

HAL®とは、装着し歩行運動を行うことで運動学習を引き起こし、歩行能力を向上させるといわれている最新の医療機器です。現在、県内の病院で鈴鹿病院のみが導入しているこの機械の利用は、当院の小長谷名誉院長が導入し、久留院長が指揮を執り始めたプロジェクトで、多数の患者様から効果を実感しているという声をいただいています。今回の研究では歩容の改善にも繋がるのではないかと、という更なるHAL®の効果が期待できる結果となりました。今後も利用と研究を重ねることで、患者様により良い医療を提供できれば、と考えています。

このような賞を頂くことができ、協力して頂いた患者様や院長はじめスタッフの皆様に感謝を申し上げます。



### 臨床検査科 北村 沙耶

今回、「シスタチンC測定 院内導入への基礎的検討」というテーマで発表させていただきました。

当院は、筋ジストロフィー・重症心身障害・神経難病の分野において専門医療を提供しています。これらの患者様では筋肉量が少ないため、通常用いられる腎機能の指標が適しません。そこで院内の患者様の腎機能評価として、筋肉量の影響を受けにくいシスタチンCに注目し、院内で測定できるように基礎的検討を行いました。

発表に至るまでには、院長先生をはじめ、諸先生方に沢山のご意見やアドバイスをいただき、とても勉強になりました。そのおかげで現在は、院内でのシスタチンC測定が可能となりました。また、このような賞をいただくことができ、とてもうれしく思います。ありがとうございました。





# 医学 コラム

もうすぐ、この病院に来て、一年が経とうとしている。ここに来る数日前に一人の友人を訪ねた。大学時代に同じ研究室で頭を抱え、重い観測機器を運び、そして助けてもらう経験をさせてもらった1年上の友人である。その彼が、筋萎縮性側索硬化症（ALS）を発症した。

彼を訪ねる前には、かなり考えた。病気の見舞いではなく、普通に喫茶店で会うように気兼ねのないようにして会いたい。何日も考え抜いた上で、1枚のモネの絵を持って訪ねることにした。「水連」を書くことで知られているモネだが、他にもたくさんの風景絵を描いている。今回は「鶺鴒（もちろんレブリカ）という絵をもっていった。モネは、日長一日同じところに座り、何

## 私たちの先にある感覚で 日常を捉えている人々

枚も同じ場所から同じ風景を描いている。けれども、モネは、これらに対し、日々に光の差し方が違い、風の流れ方が異なり、1秒として同じ風景はないという。彼は、若い時から経済的に困窮し、家族の不幸にも見舞われてきた。そして、晩年には白内障にも悩まされた。しかし、彼は視力が落ちた分を肌で感じ、別の感覚でそれを補いながら絵の中に表現していたようである。モネの絵を長時間眺めていると、油絵具の盛り上げ方やその影までもが考え尽くされたように見えてきて、時に新しい発見がある。ALSで身体が動かなくなった友人は、私よりも感覚が研ぎ澄まされているはずで、長時間、モネの絵を眺めていたら何か新しいものを見つけるかもしれない。次に会う機会には、それを聞けるかもしれない。そう考えながらモネの絵を持って彼を訪ねた。彼は、現在も、人工呼吸器を着け、胃瘻から栄養と取りながら、繊細な感覚で「ペランダ畑 時々山から」というサイトにブログ (<https://azm.at.webry.info/>) を掲載し、発信を続けている。

音と光の違いはあるけれども、ピアニスト辻井伸行はひとつ一つの音を形あるもののように奏でる。物理学者ホーキングは、難解な数式を頭の中だけで操っていた。人間はどこかの機能が落ちると、それを補おうとして別の機能を高める力があるようである。そんな目で病棟をみると、東には、個々のデザインの形、配色、全体のバランスなど、水玉模様で代表される芸術家 草間彌生に通じそうな、素晴らしい切り絵がある。草間彌生とファンタジーを融合させたようで、どこに出展しても入選できそうな程にバランスがよく、芸術性が感じられる。西には、ミケランジェロ風のデッサンをする人がいる。彼女のデッサンはミケランジェロと同じく、静止画ではなく、動きを捉えている。これらの人たちは、私たちが捉えることのない感覚で日常を捉えているに違いない。

(内科医長 牧江 俊雄)



## 看護部だより

教育担当看護師長 横地 有紀



当院は、進行性筋ジストロフィー、神経難病、重度心身障がい者などの高度医療と療育事業を併せもつ施設です。当院の患者さんには、コミュニケーションの工夫、安楽な体位の工夫、清潔や食事、排泄など生きる営みを支えるケア、安全な呼吸器管理などが重要です。看護職員はこれらのケアを通し、患者さんの生活の質を高め、ぬくもりを届け、安心していただける看護を大切にしています。

このような看護を実践するためには、専門的な知識や技術を常に学び続ける

必要があります。看護職員は日々の看護の中で、先輩から後輩へ、同僚同士、お互いに学び合い、育ち合いながらより良い看護を目指しています。当院では、意欲溢れる看護職員の学びを支えるために、教育委員会主催による施設内研修を充実させています。施設内研修は、全般的な看護実践能力を段階的に学習できる研修や、神経難病や筋ジストロフィー、重度心身障がいの看護について、より専門的に学習できる研修で構成されています。研修では、患者さんの視

点に立ち思考し、他者を尊重しディスカッションすることを心がけています。また、専門職団体である看護協会主催の研修や国立病院機構主催の研修など、施設外研修を活用し、社会情勢や医療の変化に対応できる最新の知識や技術の習得に励んでいます。そして、研修で学んだ知識や技術を、看護に最大限発揮できるように努めています。

近年、医療環境は大きく変化し、看護職への期待が高まっていることを感じています。今後も、地域社会において、当院の役割を果たすことができる職員の育成とともに、職員がやりがい高められるような教育を目指し、教育委員一同活動していきたいと思っています。



## 鈴鹿病院 NEWS

平成30年度  
院内成人式が  
開催されました



1月23日に平成30年度院内成人式が開催されました。今年度は2名の患者さんが新成人となり式典に臨まれました。病院長をはじめとする病院幹部職員や新成人の出身校である特別支援学校の先生方を来賓として招き、お祝いの挨拶とともに激励の言葉をいただきました。



生き生き健康講座を  
開講しました

1月30日に中央病棟3階プレイルームにて「第19回生き生き健康講座」を開講しました。当日は地域住民の方など約60名の皆さまにご参加いただきました。第一部では曾根第二脳神経内科医長による『認知症の診断と治療』、第二部では埋理学療法士による『座ってやるう！楽しい頭の体操』という題目でそれぞれ講演をおこない知識を深めました。



## 名誉院長の部屋

名誉院長 小長谷 正明

# カメちゃん

月日は百代の過客とは、松尾芭蕉の『奥の細道』にある言葉で、時間というものとは次々と流れ去っていくという例えです。かつては、青年医師としてこの病院を訪れた私も、てんやわんやとやっているうちに院長を通り越して名誉院長になり、とうとう古希を迎えてしまいました。

で、そこで何をしようと考えたことの一つが、150年以上も生きた記録があるカメを飼い始めることです。それも子亀のうちからで、ともに成長していくことにしたのです。インド洋の小島から来たリクガメで、野菜とフルーツばかり食べていて、ゆっくりとマイペースで歩いていて慌てない。頭をつついても、あごの下を撫でてみてもいやがらず、ゆるキャラで、名前は「カメちゃん」。

カメは万年と、長寿で目度い生き物とされています。日本だけではなく、イギリスでも『ドリトル先生と秘密の湖』では「ドロコ」と「ベリダ」いう大きなリクガメの夫婦が活躍し、何千年も前のノアの大洪水の体験をドリトル先生に語っているくらいです。実際のところは、260年生きたと推定されるゾウガメが最長寿で、確からしいのは150歳から200歳といったところですが、長生きには違いありません。ちなみに鶴は2、30年とのこと。

ヒトはもちろん、カメでもその他の動物でも寿命があります。細胞や内臓が老化し、生命を維持できなくなるのです。細胞老化の原因の一つには、活性酸素という酸化力の強い状態の酸素分子による傷害、つまり細胞の中の構造物が錆びてしまうことだと言われています。地球上の生物は基本的には酸素を使って養分を分解してエネルギーを取り出している。つまり、食べ物を燃やして体を動かし、様々な活動をしているのです。その過程でオゾンなどの非常に酸化力が強い、活性酸素が出

現して、これが細胞内のタンパク質や酵素、DNAを傷つけたり結びついたりして、ちゃんと働けないようにしてしまう。だから、細胞は元気がなくなり、DNAが傷つけばガンが発生したりするのです。

ネズミやハチドリのような体の小さな動物は、絶えず動き回っていて心臓の脈拍も早く、そして寿命も短い。マウスの脈拍は毎分500回で寿命は2年半、ハチドリは1500回で3、4年。エネルギー産生や代謝が活発なので酸素を使い、それだけ活性酸素にやられやすいのです。ちなみにゾウは40回で70年、大きな動物はゆっくりと時間が流れているようです。カメの脈拍についての岐阜大学獣医学科の研究では、日本の池にいるイシガメで27回だそうです。「カメちゃん」はイシガメとは別種なのですが、もっとスローモーなので、脈拍もさらに少ないかもしれません。

実は、最大寿命は生まれながらに決まっています。生命の設計図と言われるDNAは、細胞の中心部の核に、染色体という形でしまわれていて、DNAが文字ならば、それを印刷して綴じて本にしたのが染色体です。染色体の最後

の方にテロメアと呼ばれる部分があり、細胞分裂のたびに短くなっていきます。しばらく前の回数券のように使った際に減っていき、元の長さの半分以下になるとそれ以上細胞分裂



はできない。つまり、寿命が尽きるのです。テロメアの長さからすると、ネズミは細胞分裂が15回、ヒトは50回、ゾウガメは125回でき、やはり、カメは長生きです。

テロメアの長さから計算すると、ヒトの最大寿命は130歳くらいだとのこと。大隈重信さんは明治から大正にかけての政治家で総理大臣になり、早稲田大学を創立された方です。彼は、動物は成長期間の5倍の寿命があり、人間は25歳まで成長するので125歳の寿命があるはずだ、「我輩は125歳まで生きるのじゃ」と言っていました。最新科学のテロメア説と似た様な数字ですね。偉いヒトには天性の直感があるのでしょうか。はっきりとした記録のある最長寿者はジャンヌ・カルマンというフランス人女性の122歳で、日本では田島ナビさんという方の117歳です。大隈さんは84歳直前で波乱の人生を終えましたが、当時としては長寿でした。

命の回数券、テロメアの長さは成長すると個人差が出てきます。ストレス過剰や不摂生な生活をしていると短くなるといいます。まさに命を縮めるわけです。よく眠り、適度に運動するのが大事です。もちろん、認知症予防に頭も使わなければなりません。

そこで、ともかく私も「カメちゃん」のスローライフに付き合いながら、テロメアの減少スピードを遅らせていこうと思っています。

## 地域医療連携室だより



鈴鹿病院は神経難病の患者さんの長期療養入院やレスパイト入院の受け入れをおこなっています。

長期入院希望のため脳神経内科へ外来受診される場合は、診療情報提供書(紹介状)をかかりつけの先生に書いてもらってください。また、かかりつけの医療機関から事前に紹介状をFAXにて鈴鹿病院へ送信していただくようお願いいたします。紹介状の内容を確認し、折り返し当院より連絡させていただきます。

その際に外来受診にお越しいただく日程を調整させていただきます。なお、この時点で障害者総合支援法に基づく障害支援区分認定調査を予め受けておいていただくようお願いします。その後、患者さん本人が来院し医師による

外来診察を受けてください。どうしても患者さん本人が当院へ来られない場合は、ご家族又は法定後見人がお越しください。

まずは下記連絡先までお問い合わせください。今後とも鈴鹿病院をよろしくお願いいたします。

**国立病院機構 鈴鹿病院 地域医療連携室**

〒513-8501 三重県鈴鹿市加佐登3丁目2-1  
TEL:059-378-1321 FAX:059-379-6670

## 昭和・平成スポーツオタクコラム 番外編 6

「勝ちに不思議の勝ちあり」 副院長 スポーツドクター 安間 文彦

先回まで、権藤博氏と平成16-28年にドラゴンズ監督をつとめた高木守道氏、落合博満氏、谷繁元信氏をとりあげました。プロ野球ファン、スポーツドクター兼競技者として勝つ難さを書きつづってきたコラム、最終回のテーマはずばり「勝つこと」です。

私の生涯スポーツはバスケットボールです。医学生時代は週の大半がバスケ、この30年以上は年末恒例のOB戦に出場する最年長プレイヤーで、マイ・ボールに触れない日は今でも少ないのです。昨秋「私たちのバスケ部が西日本医科学学生体育大会(西医体:参加44校)と全日本医科学学生体育大会(全医体:参加8校)で優勝したので、祝賀会を行います」と報せをうけました。このチームは60年以上の歴史をもちますが、西医体が最高3位、全医体も3回出場しただけです。ですから、西医体でさえ

勝つことが難しいのに、東西それぞれで準決勝に進出したチームだけが参加できる全医体でも勝ってしまうとは…想像を超えていました。



盛会となった祝賀会で、最年長OBとして「なぜ勝てたかを言葉にしておくこと」が後輩たちの人生を豊かにすると思った私は、全国制覇の理由を選手、コーチ、マネージャーの全員にスピーチしてもらいました。そこで西医体MVPが「直前二大会で優勝し、西医体の優勝は当たり前だった」と一言、

「勝って当然」という勝者のメンタリティに皆が感銘をうけたようでした。

「勝ちに不思議の勝ちあり、負けに不思議の負けなし」という金言があります。プロ野球では、昭和40-48年の9年連続日本一になったジャイアンツ、昭和61-63年と平成2-6年の8回パリーグを制したライオンズ、平成7-9年と11-13年の6回セリーグを制したジャイアンツ、平成16-23年の落合監督のドラゴンズ黄金時代では「勝ちに不思議の勝ちなし」であり、勝利に必然性があつたのだと思います。

本年1月「ゴンドウ、ゴンドウ、雨、ゴンドウ」の権藤さんが、高木氏、落合氏に引き続いて野球殿堂入りしました。少年時代の私のヒーローが蘇ります。プロ野球もバスケットボールも時代を重ねてきたものだと思います。ご愛読ありがとうございました。





## ■ 外来診察担当表 (2019年3月1日現在)

	月	火	水	木	金
脳神経内科	小長谷	酒井 木村	久留 南山	小長谷	久留
内科	野口	落合	安間 (循環器内科)	安間 (循環器内科)	棚橋 (循環器内科)
小児科		予約			予約
整形外科		田中 (装具外来)			田中
リハビリテーション科					田中
皮膚科		予約			
歯科	若林	黒原(午後)		留奥(午後)	
禁煙外来	野口			安間	

- 外来受付は8:30~11:00、診療開始は9:00~です。
- 歯科は身体障害者の方に限ります。
- 装具外来は火曜日の午後1:30から整形外科で受付いたします(あらかじめ電話予約のうえお越してください)。
- 小児科外来は担当医とご相談のうえ、ご予約ください。
- スギ花粉症でお悩みの方を対象に舌下免疫療法を実施しています。(月曜日)
- 土曜日、日曜日、祝祭日は休診です。

## ■ 交通案内

- JR「加佐登」駅より徒歩8分
- 東名阪「鈴鹿」I.C.より車8分
- 近鉄「平田町」駅よりタクシー15分
- 鈴鹿市西部地域コミュニティバス  
椿・平田線「26加佐登神社」下車すぐ



## ■ 編集後記

鈴鹿の風に春の香りがします。平成19年の創刊から平成31年まで編集長を務めましたが、本号を限りに交替します。歴代の編集委員、寄稿者、読者の皆様に感謝します。新しい時代に、病院広報誌も一歩を踏み出します。今後ともご愛読ください。

(安間文彦)

## 独立行政法人国立病院機構 鈴鹿病院

〒513-8501 三重県鈴鹿市加佐登3丁目2番1号 Tel 059-378-1321(代) Fax 059-378-7083 <http://www.hosp.go.jp/~suzukaww/>

平成31年3月発行